

## ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム（HFSP） 2007年度審査結果について

国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム推進機構（HFSP O）が、2007年度の助成プログラムの審査結果を発表しました。

### 2007年度 各助成制度の応募数及び受賞数

| 研究 Grant    | 応募状況       |                  | 受賞状況       |                   |
|-------------|------------|------------------|------------|-------------------|
|             | 応募<br>チーム数 | 応募者数<br>( )内は日本人 | 採択<br>チーム数 | 総採択者数<br>( )内は日本人 |
| プログラム Grant | 639        | 2131(153)        | 25         | 88(4)             |
| 若手 Grant    | 117        | 328(28)          | 10         | 29(5)             |
| 合計          | 756        | 2459(136)        | 35         | 117(9)            |

| フェローシップ    | 応募状況 |             | 受賞状況 |             |
|------------|------|-------------|------|-------------|
|            | 応募者数 | 日本人<br>応募者数 | 採択者数 | 日本人<br>採択者数 |
| 長期フェローシップ  | 614  | 73          | 95   | 8           |
| 学際的フェローシップ | 54   | 2           | 5    | 0           |
| 合計         | 668  | 75          | 100  | 8           |

| CDA | 応募状況 |             | 受賞状況 |             |
|-----|------|-------------|------|-------------|
|     | 応募者数 | 日本人<br>応募者数 | 採択者数 | 日本人<br>受賞者数 |
|     | 48   | 8           | 24   | 3           |

CDA: キャリア・ディベロップメント・アワード

(2007年度に採択された日本人研究者)

**プログラム Grant: 4名採択(研究代表者1名)**

**岡村 康司 (研究代表者)**

(自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター及び生理学研究所 教授、  
総合研究大学院大学生命科学研究科生理科学専攻 教授)

“*Biodiversity and principle of the voltage sensor domain*”

(電位センサードメインの多様性とメカニズム)

**中垣 俊之**

(北海道大学 創成科学共同研究機構 電子科学研究所 准教授)

“*Optimization in natural systems: ants, bees and slime moulds*”

(自然システムにおける最適化: 蟻、蜜蜂、粘菌)

**上田 卓也**

(東京大学 大学院新領域創成科学研究科 メディカルゲノム専攻 教授)

“*Approach to the construction of minimal living cells*”

(原始細胞の試験管内構築の試み)

**山下 一郎**

(奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科 教授)

“*Biomimetic mineralization using the Dps family of protein cage architectures*”

(球殻状タンパク質 Dps の天然および人工環境下でのバイオミネラル化の研究)

**若手研究 Grant: 5名採択(研究代表者1名)**

**澤本 和延 (研究代表者)**

(慶應義塾大学医学部 准教授 (5月1日より名古屋市立大学大学院医学研究科 教授))

“*Fluid flow in developmental biology*”

(発生生物学と液流)

**野中 茂紀**

(自然科学研究機構 基礎生物学研究所 助教授)

“*Fluid flow in developmental biology*”

(発生生物学と液流) と同一チーム

**萩原 正規**

(大阪大学産業科学研究所 機能分子科学研究部門 精密制御化学研究分野 助教授)

“*The biological role of tandem repeats in genomes*”

(ゲノム配列中に存在する繰り返し配列の生物学的役割)

**河崎 洋志**

**(東京大学大学院医学系研究科 21世紀 COE「脳神経医学の融合的研究拠点」 特任准教授)**

“*Redesigning the architecture of visual cortex: horizontal connections and cortical column layout*”

(大脳視覚皮質の再構成: 水平結合と皮質円柱レイアウト)

**竹本 千重**

**(理研横浜研究所 ゲノム科学総合研究センター タンパク質基盤研究グループ 上級研究員)**

“*Structural study on protein synthesis. Ribosome nascent chain cross talks and cotranslational folding*”

(タンパク質合成系への構造生物学的アプローチ: リボソーム-新生ペプチド間のクロストークと翻訳協働的な高次構造形成)

### キャリアデベロップメントアワード: 3名採択

**深田 優子**

**(国立長寿医療センター 遺伝子蛋白質解析室)**

“*Regulation of synaptic strength by epilepsy-related ligand/receptor, LGI1 and ADAM22*”

(てんかん関連リガンド・受容体 LGI1/ADAM22 によるシナプス強度調節機構)

フェローシップ受賞歴: 米国 カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校 (2003年～2005年)

**平田 普三**

**(名古屋大学大学院理学研究科 生命理学専攻)**

“*Molecular basis underlying activity-dependent postsynaptic clustering of GlyRs during development*”

(発生過程のグリシン受容体凝集の分子基盤)

フェローシップ受賞歴: 米国 ミシガン大学 (2003年～2005年)

**森田 康裕**

**(大阪大学微生物病研究所 免疫不全疾患研究分野)**

“*Lipid domains in mycobacteria involved in plasma membrane and cell wall biogenesis*”

(細胞膜と細胞壁の生合成に関するマイコバクテリアの脂質ドメイン)

フェローシップ受賞歴: オーストラリア メルボルン大学 (2001年～2003年)

## ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (HFSP) について

### 1. 概要

**背景** 1987年のベネチア・サミットにおいて、中曽根首相(当時)が提唱

**目的** 生体の持つ優れた機能の解明のための基礎研究を学際、国際、若手重視の理念の下に推進し、その成果を広く人類全体の利益に供すること

**成果** 研究グラントを受けた研究者のうち12名がノーベル賞を受賞

**運営支援国** 日本、米、英、仏、独、伊、EU、スイス、加、韓、豪、NZ、印

我が国は約 36.3 億円(平成 19 年度予算、全体の約 5.3 割)を拠出

### 2. 事業内容

#### 実施主体

**国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム推進機構(HFSP O)**(1989 設立)

評議会会長:伊藤正男 理化学研究所脳科学総合研究センター特別顧問

事務局長:トルステン・ウィーセル ロックフェラー大学名誉学長(1981年ノーベル生理学・医学賞受賞)

#### 助成研究対象領域

**生体の持つ複雑な機能の解明のための基礎研究**

(具体的には、分子レベルでの生物学的機能や、高度な脳機能の解明など)

#### 助成事業内容

**研究グラント事業:国際共同研究チームへの研究費の助成**

プログラム・グラントと若手研究者グラントの2種類。2カ国以上の研究者(異なる研究分野)からなるチームを対象。助成期間は3年間で、年間の助成額は最大45万ドル。

2007年度:35件(うち日本人研究者9名(研究代表者5名)採択)

プログラム・グラント 25件(うち日本人研究者4名(研究代表者1名))

若手研究者グラント(助教授、講師等が対象)

10件(うち日本人研究者5名(研究代表者1名))

**フェローシップ事業:国外での研究を行うための旅費・滞在費の助成**

**長期フェローシップ事業**

博士号取得後3年以内の研究者を対象。新しい研究分野に挑戦することを重視。

助成期間は3年間で、助成支援の3年目(最終年)には本国へ帰るか、引き続き受け入れ先で研究を続けるかを選択できる。年間の助成額は約4万5千ドル。家族手当、語学研修手当有り。

2007年度:95名(うち日本人研究者8名)採択

### **学際的フェローシップ事業**

生命科学分野以外(物理学、化学、数学、工学等)の研究者が国外で生命科学分野の研究を行うことを支援。応募条件は長期フェローシップと同じ。

2007年度: 5名 採択

### **短期フェローシップ事業**

学際的な研究などの新たな研究分野について研究する機会支援。随時採択。

助成期間は2週間～3ヶ月。

### **キャリア・デベロップメント・アワード事業: 帰国後の支援**

若手研究者が帰国時に独立した研究を始めることを支援。助成期間は2年～3年で、助成額は、総額30万ドル)。2000年以降の長期及び学際的フェローシップを2年以上受給した研究者を対象(終了から2年以内)。

2007年度: 24名(うち日本人研究者3名)採択

### **受賞者会合事業: 受賞者の国際的な研究集会**

グラント・フェローシップ受賞者が一堂に会し、最先端の研究成果について情報交換、討議等を行う。2006年度はフランス(パリ)で開催、2007年度はオーストラリア(サンシャインコースト)、2008年度はドイツ(ベルリン)で開催予定。